

## 2022年度 佐久長聖高等学校 自己評価

目指す学校像	教育理念「自由と愛」のもと、生徒一人ひとりの個性を尊重し、楽しく充実した学校生活を通して、生徒たちが魅力的な人間に成長できる環境整備を積極的に推進する。
--------	--

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>魅力ある授業を生徒に提供できるための教科指導の研鑽に努める。</li> <li>生徒の進路実現に向けて、進路指導體制の発展に努める。</li> <li>生徒との前向きな対話のある生活指導・学級運営を行う。</li> <li>心身ともに健康で明るい学校生活をが送れるよう、生徒の人権を尊重し安心安全な学校づくりを進める。</li> <li>学校の教育活動を生徒や保護者、本校志願者、地域に対し、幅広く情報発信を行う。</li> </ol>
------	---

評価
A: 十分
B: 概ね十分
C: やや不十分
D: 不十分

	評価項目	評価の観点	評価	具体的取組状況・成果	課題・問題点
1	学習指導 進路指導	生徒の学ぶ意欲を引き出し、主体的に取り組む態度を育む授業が行えたか。	B	教科書だけではなく、その他資料やICT、各種アプリ等様々なコンテンツを利用することで、生徒の興味関心を高めた。／ほぼ毎授業時に行う質問コーナーを通じた興味喚起を行えた。／『学び合い』の導入により、クラス全員が授業中に学びに向かうことができた。／スポーツの技術について、『出来る』だけでなく『分かる』ことも意識して授業に取り組み、目的達成のためにどのような工夫ができるかを考え実行する姿勢が多く見られた。	最近の生徒の意欲向上心の把握が難しい。／常に身のまわりのことと関連させて、ただの暗記ではなく、考え応用できる生徒を育てたい。／「生徒の意欲を引き出す工夫はまだまだ出来る」いつもそう考えていたいです。／教員の負担が増えてしまう。／測定学力という面では力のない者たちの興味を引き出すことは、なかなかできていなかった。／コロナの影響で歌唱の題材を取り扱えず、全体的に一方的な授業になってしまった。
		問題発見力、課題解決力、表現力、コミュニケーション能力を養う授業を展開できたか。	B	生徒自身で問題を作成する授業展開を取り入れた。／グループワークを多く取り入れ、課題としてロイノートで自分の考えを述べさせることができた。／グループ活動での話し合いの内容が具体的になったり、発表の仕方の質が向上した。／積極的に発言したり、他者と協働しようとする生徒が増えた。／基本的な技術取得を重点的にしているときも、グループでの活動を増やすことで、お互いの課題を発見し、改善する行動が見られるようになった。	様々な手段を使った半面、中途半端になってしまった。／授業時数と進度の問題があり、つねに実施することはできない。／意見交換をする生徒が固定されており、全体を巻き込んだ流れが作れなかった。／小規模グループでの話し合いの成果を全体に共有する機会をもっと作っていくべきだった。／より開かれた答えが出るような設問の工夫をもっと行う。／そのため授業準備に多くの時間を費やす必要がある。
		生徒の希望進路を実現するために、大学入試についての研究を行い、生徒個々に対応した指導が行えたか。	B	総合型選抜の増加を受けて、3か年計画で志望理由書、小論文、面接の対策を実施することができた。／入試問題はあらかじめ解いており、記述問題対策も個別に対応した。／昨年の高3時の担任の経験を生かし、個々の面接指導などに、そこから得た多くの情報を生かすことができた。／積極的に情報収集を行い、生徒との面談も繰り返し、日常的にコミュニケーションを取りながら個々に適した指導を行うよう心掛けた。	面接指導において力不足を感じ、大学のリサーチがもっと必要だと感じた。／小論文等の添削に関してはまだまだ勉強不足なところがあり、的確な指導が行えているか不安があった。／大学入試の新たな情報を共有する場面が少ない。／明確な志望を持っていない生徒への働きかけ。／難関大の合格者を増やせるような指導を1年次から計画的・戦略的に行う必要がある。／入試傾向が変わり、より推薦入試や総合型入試での合格を勝ち取れる準備が必要。
		大学のさらに先を意識しながら進路を考えられるようなキャリア教育や進路指導を実践していたか。	B	総合探究での活動や各種講演会などを通して、生徒が社会問題を自分ゴト化して自分のキャリアにつなげることができた。／学校全体として、キャリア教育に取り組むレベルは上がってきている。／特にスポーツを行っている生徒に対してはアスリートのセカンドキャリアの重要性を説明した。／1年次より継続的に様々なイベントを幹旋し、参加させてきた結果、生徒たちは視野が広く、自分の頭で考え、行動することができている。	もう少し幅広い職種の方々を呼んだ方が良いかと考える。特に生徒のアンケートをとって求める職種の方に来ていただける機会があればより積極的な参加になるのではないかと。／自分の経験とは遠い分野について、最新の研究を追いきれない部分があった。／せめて2年生までは毎年一度はインターンシップに参加するように促していきたい。／様々な職業や大学・専門などについてもっと自分自身が知るべきだと思った。
2	生徒指導	校内外問わず、いじめ・暴力・SNSトラブルなどのない安心・安全な学校を送るための啓発活動を行い、情報収集を行えたか。	B	日常生活アンケートや普段の面談を通して、いろいろな話が聞けるようになっていたと思う。学習記録のコメントなども有効に活用してきた。／特にSNSについては昨今問題視されているため、危険性等についてはあらゆる場で触れるようにしてきた。／ニュースになるようなトラブルには目を通し、話題になるよう努めた。／毎日、生徒となるべく会話を増やせるように休み時間に校内を歩いたり授業後に話したりして情報収集をした。	この先もこの種の問題は多様化するであろうから常に新しいことを学び、研鑽を積んでいきたい。／無記名の怖さをもう少し伝えなくてはいけない。嫌がらせや困ったことに関しては記名で反応をしてくれているので大きな問題にはならないが、ネット社会での怖さをもう少し伝えるべきと感じた。／生徒のSNSを教員がチェックすることは技術的に困難で、一般的な正しい使い方を指導するに留まる。本腰を入れて指導をするには外部の業者の協力が必要。
		生徒に体罰や暴言と捉えられるような言動を行わなかったか。	B	生徒を1人の自立した人間として、丁寧に接することを心がけた。／生徒に厳しい言葉を投げかけたとしても、人格を否定するようなことは言っていない。また、保護者の方にはその都度連絡し、連携を密にとっている。／生徒を叱ったり責めたりする前に、よく事情を聴くところを心がけ、その後も冷静に声掛けを行った。／最大限の配慮を行いつつ、万が一の際にもあげ足を取られたりすることのないよう、生徒との信頼関係構築を常に意識している。	生徒の捉え方で、言動は体罰や暴言に変わると思うので、今後も気をつける必要がある。／筋が通っているかが重要だと感じる。／生徒に本気で関わることがしづらくなってきている(何もしない方が無難)／気が緩んで放言的になってしまいそうときがある。／生徒との距離感、コミュニケーションの取り方や聞く耳をどのようにして持つべきかを常に考えていかなければいけないと感じた。
3	保護者連携 地域連携	保護者や外部からの声に対してきちんと対応・返答できたか。	B	誠意をもって対応するように事前に調べたり確認を行ってから対応をした。／懇談や電話対応でいただいた意見を、授業やホームルームに反映した。／電話以外のツールも必要に応じて使用して連絡を取りやすくしてきた。／こまめに保護者と連絡を取り合うなど、ご安心いただけるよう対応することができた。／保護者からの要望や依頼にはできる限り速やかに丁寧に対応させていただいたので、保護者の方からの理解を得ることができた。	ちらの説明不足で、悪い捉え方をされることがあったので、事前の説明は重要だと感じた。／保護者によっていろいろな考えがあることを改めて感じた。よかれと思ったやっつ些細なことでもその点を面談で苦情を言われたりしたので、注意が必要。／内容によっては学年主任の先生に相談するなど、1人だけで対応しない方がよいと分かった。／もう少しレスポンスを早くできるようにする必要性を感じている。
		ホームページ・Classi等で積極的に学校・学年・学級・クラブ等の情報発信ができたか。	B	ホームページ掲載の年間計画を立てて、係職員と連携して情報発信に努めることができた。／HP用の部活動結果の記事に関しては、classiに結果が載った当日または翌日には作成できた。／Classiでほぼ毎日学級通信を配信している。学年では、毎週Classiで学年通信を配信している。／Classiで保護者になるべく生徒の様子が分かるように写真を撮ったり、生徒との会話の内容を投稿するように気をつけた。	日常の些細なこともホームページに、と思っていたものの、なかなか発信できるまで高められなかった。／昨年よりも学校の状況がわかりにくいといわれたこともあった。写真を入れたり、予定をいれたり工夫をすればよかった。前の担任との比較が大きいと改めて感じた。／Classiを含め、電子機器を使いこなせていない。／発信する回数が少ない、全員への周知ができていと言えない。